

第46回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成27年8月5日(水) 午後3時30分～午後5時15分
開催場所	滝川市役所3階 301会議室
出席状況	【委員】 出席：石川委員長、山田副委員長、藤本委員、本多委員、山田委員、越後委員、水戸委員、貝之瀬委員、佐藤委員 欠席：岸下委員、高橋委員 【事務局】 市民生活部 館部長、石川次長 〃 暮らし支援課 横山課長、半井課長補佐、大橋係長、酒井主査、金子主任級主事
議事内容	1. 開会 2. 協議 (1) 年次報告書の作成及び公表について 市から前年度の環境に関する取組や計画の進捗状況等について周知するための年次報告書案について説明を行った。(→資料) これに対する各委員からの意見等は次のとおり 1. 資源の環(わ)循環物語 委 員) ごみの排出量が平成21年から22年に増加している理由は何か。 事 務 局) 平成15年から従量制が始まり大幅にごみの排出量が減ったが、ある程度市民も慣れ始め、少しずつごみの排出量が増えたものと考えている。 2. 創エネ・省エネ物語 委 員) 滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量が23.7%減とあるが、中身を聞くと施設を譲渡した、センターを取り壊したのが理由であり、もしそれらが前年どおりであればエネルギー消費量はどのように変化していたのか。もう1点は、資料のグラフが白黒で印刷すると見えにくいので修正して欲しい。 事 務 局) こちらのデータについては直前になって届いたもので詳しい集計ができていない状態。次回の会議までに数字を出したい。グラフについては修正する。 委 員) 目標値は原単位でとあるが、建物がなくなっても、面積平均でやれば結果はそんな変わらないかも知れないが、より実体に近いデータになるのではないか。 事 務 局) データが直前に届いたもので内容の精査が十分できていないことから、確認し後日示したい。 委 員) 目標値がわざわざ原単位でということは、その時に何か思惑があったかと思うが、それをベースに実績を評価して行けば良いと思う。 C O 2削減目標が平成27年度時点で前年比平均1%削減というのは分かりにくい。「平均」と入るのはどういうイメージか。 事 務 局) 開始した当初から常に前年より1%削減という目標で行うという意味だが、ご指摘のとおり分かりづらい目標であるので、第二次計画では誰が見ても分かりやすい目標にしていきたいと考えている。

委員) 7ページの公共施設における使用済み食用油の燃料利用は、中央児童センターのボイラーのみでの利用となっているのか。昔はごみ収集車にも使っていたと思うが。

事務局) ごみ収集車に故障が多発したため、確実に利用できるものを考えボイラーでの利用に移行した。現在はほとんどが中央児童センターボイラーでの利用。

委員) 車輛の循環率を変更してもダメなのか。

事務局) 当時検討されたが、現在はこの形に移行している。なお、ごみ収集は住民生活に直結しているので故障が少ない形に変更したもの。車の利用については一部の公用車(ディーゼル車)では使われている。

委員) 他の市町村ではどうか?

事務局) このような取組を行っている市町村は、あまりないと把握している。

委員) 創エネ・省エネ物語では太陽光発電のことが半分近くの割合を占めていたが、これには経緯や理由があるのか。

事務局) 太陽光に力を入れていこうということで、市役所に太陽光発電を取り入れたことや、住宅用太陽光発電の補助金、市有地にメガソーラーを誘致するなど広く使われて欲しいというアピールの側面もある。

委員) メガソーラー誘致の所管はくらし支援課か。

事務局) 所管は別で、企業誘致の側面もあるため産業振興課で行っている。

委員) 滝川らしい菜の花油プロジェクトについての評価が見えるところは、廃食用油のところで良いか。

事務局) 過去に菜種油を使っのエネルギー利用の実証実験などを行ってきたが菜種油については食用の油として販売しており、現在は廃食用油のみを利用している。菜の花自体は、今年度、全国作付面積第1位になるなど、観光の主力になっており、毎年5月末に行われる菜の花まつりで市内外から観光客を呼び込んでいる。

3. 農・山・川(ノー・ザン・リバー)物語

委員) 農業体験授業実施校数の目標数が40校とあるが、実際に行ったのは滝川市内の小学校・高校・大学とあるが、他の市も対象なのか。

事務局) 40校については平成23~27年度の累計で対象は滝川市内となっている。

委員) 滝川市内の保育所の子供たちが江部乙でトマトの収穫を行っているがこれは入らないのか。

事務局) 当初の目標が学校であったため入っていないが、確かに広い範囲で行っても良いかと思うので次回より組み込んでいきたい。

委員) 原体験を早くしてあげることが子供にとって意味があることになる。

委員) 受け入れている農家の人の協力あつてのものであると思うことから、評価した方が良いかと思う。

4. 人の環(わ)づくり物語

委員) 消費者協会ではくらし支援課の協力を得ながら、環境政策について取り組んでいるが載せてなくてよいか。

事務局) 本年度の年次報告書より掲載する。

委員) 環境学習リーダーの人数についてだが、平成26年度はエコ部ということでは13名が実績として追加になっている。今までの事業がエコ部ということ

	なのか、それとも今までやってきたことはやめて、新たにエコ部に切り替えたのか。 事務局) 新たに切り替えた取組となっている。これまでは1日から2日の日程で座学と施設見学を行っていたが、より踏み込んだ内容とするため、エコ部については、打合せからイベントなどを合せると活動回数30回とかなり濃密に打合せを行い、実際に小学生に教えるまでの内容になっている。 委員) 活動全30回で、前年度までのリーダーが何かをするということはあったのか。 事務局) 新たな取組ということで、前年度までのリーダーが何かをしたということとはなかった。 委員) 前年度までのリーダーの方々は、それほどリーダーとして何もしていないのか。 事務局) リーダーとして習ったことを誰かに教えるという機会が少なかったという反省が事務局側にあった。そういった経緯もありこういった形に改めたもの。 委員長) 全体を通して意見等あれば、8月17日までに事務局に連絡してほしい。8月17日までにいただいた意見を基に、委員長と事務局で協議、修正しまとめるということでよろしいか。 委員) 異議なし。 (2) 第二次 滝川市環境基本計画策定方針（素案）について 第二次 滝川市環境基本計画策定方針の策定の趣旨、計画の位置づけ、計画期間、計画の対象とする環境、計画の基本構成、策定の基本姿勢、策定の体制、策定スケジュールについて説明を行った。 これに対する各委員からの意見等は次のとおり。 委員長) 新しい計画に対して、初めてこの資料を見る人もいる中で、今ここで話し合いができるほどの状態ではないので、事務局に補足をして欲しい。 事務局) 今回で全体の詳細を知ってほしいということではなく、第3回、第4回と続けていく中で理解して欲しい。 委員長) 了解したが、今の段階で疑問に思っていることや、こうした方がいいと思うことがあったら教えてほしい。 委員) 今回初めて委員になり全体的にやりたいことは分かった。ただ前回の計画も含めて、この計画が10年後のあるべき姿を今ここで一辺に決める計画なのか1年ずつ検証し、変えていくものなのか。 委員) 今年度中に作成するということが、議論の内容によっては終わらないものもあるのではないかと。決まらないものは次年度に持ち越すなど柔軟な対応も必要であると思う。 委員) 前回（10年前）の1年目はどの程度まで進んでいったのか。1年目の落としどころが分かれば。 委員) 10年という計画は長すぎるのではないかと、5年でいいのではないかと。 事務局) 前回の計画は長期的な目標を設定して、それを目指すという形にするためには、10年必要ではないかということで10年とし、その後については、社会情勢の変化はあるかと思うので、おおむね5年で見直しを行っている。この当時のやりかたどおりにやるのかはこれから検討していくが、基本
--	---

的には10年の計画とし、見直しは5年とするが、情勢の変化や計画に不都合が生じるなどの理由であれば、例えば2年で見直しを行うこともあり得ると考える。

委 員) それは委員会で決めていくということか。

事 務 局) 委員会の中で協議し決めていくものとする。

委 員) 10年間やってきて、大事なことは計画の推進と進捗管理だと思うが、この体制が10年間どうであったのか、事務局としてどのような課題点を設定しているのか。

事 務 局) 毎年、このような会議にかけて様々な意見をいただき、検証、評価してもらうことで、目標に向け着実に進めることができることから、良い体制だと考えている。先程の話にもあったが、必要があれば、その都度見直していきたいと考えている。また目標の設定が分かりづらいというようなご意見があったが、その都度見直し分かりやすくしていきたいと考えている。

(3) その他

事 務 局) 省エネモニターの説明と用紙の配布・モニターの依頼を行う。

(全体を通しての感想)

委 員) 毎回膨大な資料を作成しており、修正等もあるのかと思うが、重複している点が多い。資料は1時間半の中で議論ができる分が良い。毎回資料を読むことで消耗してしまい、論点まで辿り着けていないので、あまり生産性がない。

4. 閉 会